

体験！伝統文化

其の十二
令和2年1月23日発行

亀岡市立蕪田野小学校



さえき どうろう にんぎょうじょうり
佐伯灯籠・人形浄瑠璃

蕪田野小学校は、学校教育目標「あたたかい心、たくましい体、よく考える頭」をもとにした教育活動を推進しています。

とりわけ、永年にわたり教育の基盤に据えて取り組んできた人権教育を土台として、児童に人間の尊厳と基本的人権・生命の尊重を教授するとともに、一人一人がかけがえのない存在として、周りの人たちからの愛情や信頼、期待などで「あたたかく包まれているという感覚」を実感できる教育を目指しています。

校区内にある4つの神社合同で、毎年8月14日に五穀豊穰を祈る神事と、盂蘭盆の灯籠行事が習合した夏祭りが行われ、当日に国指定重要無形民族文化財の「佐伯灯籠・人形浄瑠璃」が蕪田野神社で営まれます。4年生が、人形浄瑠璃体験学習において、佐伯灯籠保存会の方々から、毎年の夏祭りで営まれる御輿や人形浄瑠璃の歴史や祭りの概要について説明を受けました。

また、4年・5年・6年生の希望した8名の児童が、保存会メンバーが開く「佐伯灯籠・人形浄瑠璃 子ども教室」に参加し、浄瑠璃を語る太夫や人形つかいの指導を受けて練習に励み、8月14日の夏祭りで「子ども浄瑠璃」を披露しました。



人形浄瑠璃

人形浄瑠璃文楽は、日本を代表する伝統芸能の一つで、太夫・三味線・人形が一体となった総合芸術です。その成り立ちには江戸時代初期にさかのぼり、古くはあやつり人形、そのうち人形浄瑠璃と呼ばれています。

太夫は義太夫節によって、浄瑠璃の世界を伝えるのですが、場面の情景、物語の背景、登場人物全員の言葉など、全てを一人で語り分けます。三味線は太夫の語りと一体になって義太夫節の情を表現します。人形は糸仕掛けを巧みに操って一人で一体の喜怒哀楽を表現します。

ユネスコ文化遺産

人形浄瑠璃文楽は、ユネスコにより2003年(平成15年)に「人類の口承及び無形遺産に関する傑作」として宣言され、2008年(平成20年)に「人類の無形文化遺産の代表的な一覧表」に記載されました。

公益財団法人 文楽協会ホームページ より 抜粋

文化を学ぶ



「佐伯灯籠・人形浄瑠璃 子ども教室」で児童が取り組んだ人形浄瑠璃の演目は、『傾城阿波の鳴門 順礼歌之段』です。

児童たちは8月の本番に向け、夏休み前の7月から毎週土曜日に練習に取り組みました。

また、8月の夏祭り以降も継続して練習を積み重ね、11月17日の「森の京都・京都丹波 EXPO」ステージでも上演しました。

練習では保存会の技芸員さんから、三味線の伴奏に合わせて浄瑠璃を語る太夫や人形つかいの基本動作だけでなく、声量や姿勢の指導も受け、真剣な態度で通し稽古を重ねて本番を迎えました。



児童の感想

エキスポ 2019 の発表の時は、とてもたくさんの方が見ておられたので、練習とは違ってとても緊張しましたが、間違えないように心がけて頑張りました。

保存会の方に教えてもらった姿勢の事などは、日常生活でも心がけていきたいです。



太夫の時は、台詞のテンポに気をつけました。三味線の音に合わせるだけでなく、人形の係の人の動きを見ながら合わせるようにしたらいいと教わったからです。そして、音の高さにも気をつけるようにしました。

人形つかいの時は、太夫の台詞に合うように首を動かしたり、身体の向きが相手の人からずれないように気をつけたりしました。両手を同時に動かすのでとても難しいです。



何回も練習をして、保存会の指導の方から教わったようにできるようになったときはとても嬉しいです。

大人になってからもやりたいと思うし、6年生だから今年で卒業しますが、来年の夏休みには小学生の練習の時に、教えに行きたいと思っています。



南丹教育局管内の小・中・義務教育学校における伝統文化に関する取組を、「体験！伝統文化」として南丹教育局ホームページに掲載しています。

南丹教育局ホームページ
<http://www.kyoto-be.ne.jp/nantan-k/cms/>

南丹教育局

検索

